2版

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号： １４４０１
研究種目： 基盤研究(C)（一般）
研究期間： 2012～2016
課題番号： ２４５２０４２５
研究課題名（和文） コーパス日本語研究の高度化と基盤形成のための実践的総合研究

研究課題名（英文） An integrated study for the advancement of Japanese corpus linguistics

研究代表者
田野村　忠温（TANOMURA, Tadaharu）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０２０７２０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：日本語研究におけるコーパスの利用は他の主要言語の研究に比べて大きな遅れを取ってきたが、昨今さまざまな要因により状況は変わりつつある。本研究では、日本語研究におけるコーパスの利用の可能性と問題点を多角的に追求した。具体的には、日本語のコロケーションや語史に関わる諸問題を考察するとともに、国立国語研究所のコーパスの特性を明らかにした。また、研究成果の学界・一般社会への還元として、解説的な記事や書評を執筆し、コーパス関連ソフトウェアの開発・公開を行った。

研究成果の概要（英文）：Japanese has been lagging behind the other major languages of the world in the utilization of electronic corpora in linguistic studies, but recently the situation is changing due to several factors. The major accomplishments of this research project include: 1) analysis of phenomena of Japanese phraseology and etymology using corpora, 2) analysis of BCCWJ, a corpus of contemporary Japanese created by NINJAL, 3) developments and publication of tools and Web sites related to corpora.

研究分野： 言語学・日本語学

キーワード： コーパス言語学　近代日中語彙交流

１．研究開始当初の背景

日本語研究におけるコーパスの利用は他の主要言語の研究に比べて大きな遅れを取ってきたが、国立国語研究所における各種コーパスの作成・公開などを受けて状況は急速に変わりつつある。

コーパスは言語研究の質を高め、その領域を拡大する大きな可能性を秘めているが、コーパス利用の歴史の浅い日本語研究においてはどのようにすればその潜在的可能性を引き出せるか、コーパスの利用に際してどのような問題に注意する必要があるかといったことがまだよく分かっていない。日本語のコーパスの利用環境が整いつつある今、その有効利用の方法を明らかにすることは日本語研究の発展にとって喫緊の課題である。

２．研究の目的

本研究は、コーパス、電子媒体の言語研究資料を用いた日本語研究の新たな領域と手法を開拓し発展させることによりコーパス日本語研究の高度化を推進するとともに、コーパス関連ソフトウェアの開発・公開などを通じて学界におけるコーパスの普及・理解に寄与することを目的とする。

３．研究の方法

言語の研究に既存のコーパス、電子資料をただ常識的な方法で利用するというのではなく、①事例研究を通じて新たな課題や手法の可能性を追求する、②コーパスやその利用上の問題点を明らかにする、③学界におけるコーパス利用の発展に寄与する、という３項目を意識して研究を進める。

４．研究成果

本研究の主要な成果を上記の３項目ごとに分けて記す。

①事例研究と新たな課題、手法の追求
・独自に作成した巨大なWebコーパスを用いて日本語のコロケーションを分析する方法を検討し、具体的な表現に考察を加えた。また、コロケーションの概念を再考した。
・日中両語の電子媒体の資料を駆使し、近代新漢語の語史を研究する可能性を試みた。具体的には、「科学」、「可能」、「牛津」「剣橋」、「真珠湾」、「電視」などの語史を詳細に考察した。

②コーパスやその利用上の問題点の解明
・国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の内容を詳細に分析し、その特性と問題点を明らかにした。
・国立国語研究所で開発中の『日本語歴史コーパス』に関わる論文集の書評を執筆し、コーパスの今後に関わる私見を述べた。
・サーチエンジンの信頼性に関わる最新状況の分析を述べた報告を２度行った。

③コーパス利用の発展への貢献
・『コーパスと日本語学』を編集し、BCCWJに関する論文とともに解説的な記事を２件執筆・掲載した。
・『日本文法事典』にコーパス言語学の解説を執筆した。
・Web上の多様な言語データを語史の研究に役立てる可能性と方法を述べた論文を執筆した。
・従来に引き続き各種のコーパス関連ソフトウェアの開発・公開に取り組み、日本語KWIC生成ソフトウェアや日本語用例検索サイトを改良したほか、中国清代の韻書『佩文韻府』の全文から語句を検索し、中国の古典における語句の使用状況を手軽に確認できるサイトを作成・公開した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計17件）

①田野村忠温、日本語研究の観点から見た昨今のサーチエンジン事情―Googleと Yahoo!の技術提携の結果―、『計量国語学』第28巻第5号、186～193頁、2012年、査読有

②田野村忠温、日本語のコロケーション、堀正広編『これからのコロケーション研究』、ひつじ書房、193～226頁、2012年、査読無

③田野村忠温、BCCWJに収められた新種の言語資料の特性について―データ重複の諸相とコーパス使用上の注意点―、『待兼山論叢』第46号文化動態論篇、59～82頁、大阪大学大学院文学研究科、2012年、査読無

④田野村忠温、「代わり」の意味分析、藤田保幸編『形式語研究論集』、和泉書院、61～85頁、2013年、査読無

⑤田野村忠温、日本語研究論文作成支援ツール―例文番号の付け直しほか―、『日本語学』第32巻第14号、216～223頁、2013年、査読無

⑥Tadaharu Tanomura, A corpus-based analysis of some time-related aspects of contemporary Japanese, Giuliana Diani, Julia Bamford and Silvia Cavalieri(eds.) *Variation and Change in Spoken and Written Discourse: Perspectives from Corpus Linguistics*, Amsterdam: John Benjamins, pp.255-267, 2013, 査読有

⑦田野村忠温、BCCWJの資料的特性―コーパス理解の重要性―、田野村忠温編『講座日本語コーパス６　コーパスと日本語学』、朝倉書店、119～151頁、2014年、査読無

⑧田野村忠温、日本語研究とインターネット、田野村忠温編『講座日本語コーパス6　コーパスと日本語学』、朝倉書店、153～162頁、2014年、査読無

⑨田野村忠温、スクリプト言語、田野村忠温編『講座日本語コーパス6　コーパスと日本語学』、朝倉書店、163～172頁、2014年、査読無

⑩田野村忠温、複合助詞、佐藤武義・前田富

禎他編『日本語大事典』、朝倉書店、1729～1730頁、2014年
⑪田野村忠温、文の構造、佐藤武義・前田富禎他編『日本語大事典』、朝倉書店、1785～1787頁、2014年
⑫田野村忠温、コーパス言語学、日本語文法学会編『日本語文法事典』、大修館書店、234～235、2014年
⑬田野村忠温、意訳地名「牛津」「剣橋」の発生と消長、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第55巻、81～137頁、2015年、査読無［沈国威・内田慶市編『東アジア言語接触の研究』（関西大学出版部、2016年）に加筆版を再録。］
⑭田野村忠温、王晓云・赵平译、意译地名“牛津”、“剑桥”的产生和兴衰—近代中日语言中词汇交流的一面—、赵平・刘利音编『跨文化交际与区域经济发展论』、光明日报出版社、21～29頁、2015年
⑮田野村忠温、中国語の外来名表記に関する覚書—地名Amsterdamの意訳をめぐる議論の検討ほか—、『待兼山論叢』第49号文化動態論篇、9～34頁、大阪大学大学院文学研究科、2015年、査読無
⑯田野村忠温、「科学」の語史—漸次的・段階的変貌と普及の様相—、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第56巻、123～181頁、2016年、査読無
⑰田野村忠温、Webコーパスの概念と種類、利用価値—語史研究の情報源としてのWebコーパス—、『計量国語学』第30巻第6号、326～343頁、2016年、招待論文
⑱田野村忠温、書評　近藤泰弘・田中牧郎・小木曽智信編『コーパスと日本語史研究』、『日本語の研究』第12巻第4号、151～158頁、2016年、招待論文
⑲田野村忠温、真珠湾の日中名称小史、『待兼山論叢』第50号文化動態論篇、29～55頁、大阪大学大学院文学研究科、2016年、査読無
⑳田野村忠温、サーチエンジンの示すヒット件数の信頼性再び—Google検索をめぐる最新状況—、『計量国語学』第30巻第8号、499～505頁、2017年、査読有
㉑田野村忠温、近現代語「可能」の成立—日中両語間の双方向的影響—、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第57巻、97～150頁、2017年、査読無

〔学会発表〕（計12件）
①田野村忠温、BCCWJに含まれるウェブデータの特性について—データ重複の諸相とBCCWJ使用上の注意点—、第2回コーパス日本語学ワークショップ、国立国語研究所、2012年9月7日
②田野村忠温、日本語コーパスと複文の研究、国立国語研究所共同研究プロジェクト「複文構文の意味の研究」公開シンポジウム、国立国語研究所、2012年12月15日
③田野村忠温、コーパスの種類と特徴、元智大学（台湾）、2013年5月11日
④田野村忠温、日本語研究とコーパス—コーパスの概念と利用の基礎—、華中科技大学（中国）、2013年9月13日
⑤田野村忠温、日本語コーパスの現在—BCCWJの資料的特性を中心に—、第一回中南地域日本語教育研究シンポジウム、湖南大学（中国）、2013年10月6日
⑥田野村忠温、近代日中両語における語彙交流の一面、“跨文化交際与区域経済発展”国際研討会、貴州財経大学（中国）、2014年7月5日
⑦田野村忠温、意訳地名「牛津」「剣橋」の発生と消長、漢字文化圏近代語研究会2015国際シンポジウム、早稲田大学、2015年3月21日
⑧田野村忠温、意译地名“牛津”、“剑桥”的产生和兴衰—近代中日语言中词汇交流的一面—、武汉大学史学博士论坛“新史料与新史学”、武汉大学（中国）、2015年7月9日
⑨田野村忠温、「科学」の語史、関西大学東西学術研究所2015年度第10回研究例会、関西大学、2016年1月23日
⑩田野村忠温、「科学」の起源—中国起源説の検証—、漢字文化圏近代語研究会2016国際シンポジウム、上海東華大学（中国）、2016年3月26日
⑪田野村忠温、日中語彙交流の過去と現在、中国海洋大学（中国）、2016年3月22日
⑫田野村忠温、真珠湾の日中両語における名称について、東アジア文化交渉学会第８回国際学術大会、関西大学、2016年5月8日
⑬田野村忠温、近現代語「可能」の成立—諸説の検討と新仮説—、漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム、延世大学校（韓国）、2017年3月25日

〔図書〕（計2件）
①荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究8　質問調査法と統計処理』、明治書院、2012年
②田野村忠温編『講座日本語コーパス6　コーパスと日本語学』、朝倉書店、2014年

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）
○取得状況（計0件）

〔その他〕
ホームページ等
・田野村忠温
http://www.let.osaka-u.ac.jp/~tanomura/
・日本語用例検索
http://www.let.osaka-u.ac.jp/~tanomura/kwic/aozora/
・『佩文韻府』検索
http://www.tanomura.com/research/peiwenyunfu/

６．研究組織

(1)研究代表者

田野村忠温（TANOMURA, Tahdaharu）

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40207204

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし